

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----|---|--------------|-----------------|----------------------|--|----------|--|----------|-----|
| 授業科目名 <英訳> | 共生文明学特別研究Ⅰ（博士科目） Advanced Study I in Cultural Coexistence | | | | 担当者所属・ 職名・氏名 | 人間・環境学研究科 共生文明学専攻 教員 | | | | | |
| 配当 学年 | 博士1回生 | 単位数 | 2 | 開講年度・ 開講期 | 2018・ 通年 | 曜時限 | | 授業 形態 | | 使用 言語 | 日本語 |
| 分野名 | | | | | | | | | | | |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | | | |
| <p>さまざまな文明間の対立の歴史を踏まえ、その対話を可能にする「文明相互の共生」という視点から、その方策を探究し、歴史・社会・文化の連関性を踏まえて、現代の人間が直面する問題や社会的な課題を、多様で歴史的な価値をもった文明環境との関わりにおいて研究する。院生の研究テーマに即した形で、基本知識の獲得、基礎的な思考の養成を体系的な形でおこない、また演習によってそれを確かなものとする。そうした趣旨に即して、博士論文の研究テーマを定め、研究方針、研究方法などについての具体的指導を行なう。</p> | | | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。 ・ オリジナリティを追求できる力量や論文執筆に当たり考慮すべき論理、構成、表記等、研究を遂行する上で必要な力量を身に付けることができる。 | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | | | |
| <p>指導教員による研究計画作成・研究指導</p> <p>主に第1年次の学生を対象にする。学生は、当該授業科目の指導教員によって与えられる研究課題を遂行し、博士論文の基礎となる分野に関して高度な知識を習得するとともに専攻する分野の背景を理解する。学生は学年末に課題研究レポートⅠを提出してこの科目の単位認定を受ける。</p> | | | | | | | | | | | |
| 【履修要件】 | | | | | | | | | | | |
| 共生文明学専攻博士後期課程1年次必修 | | | | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法・観点及び達成度】 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価については、ゼミでの発表、文献の読み、議論の能力などを総合して行なう。 | | | | | | | | | | | |
| 【教科書】 | | | | | | | | | | | |
| 授業中に指示する | | | | | | | | | | | |
| ----- 共生文明学特別研究Ⅰ（博士科目）(2)へ続く ----- | | | | | | | | | | | |

共生文明学特別研究Ⅰ（博士科目）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

論文の作成に関して、必要な資料を渉猟し、その構想や章立て、先行研究の扱いなどに関して発表できる準備をしておくこと。進捗状況を報告し、授業での助言や討議を参考に更に改良するよう、予習、復習を常に行う。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。